

議事要旨(3) ASAF対応専門委員会における検討状況

冒頭、小賀坂副委員長より、IASBの概念フレームワークプロジェクトの検討状況の概略について説明がなされた。続いて、紙谷ディレクター、関口常勤委員及び板橋ディレクターより、説明資料[審議事項(3)-1]から[審議事項(3)-3]に基づき、詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な意見と、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

概念フレームワーク（純損益及びOCI）

- ある委員より、フルリサイクリングに関連して、説得力のある純損益の定義を行うことが可能であるという主張を IASB に対して行うのではなく、純損益の定義をしなければならないので定義を行うということについて諸外国の関係者に理解を得るような取り組みを行うように、戦略を見直す必要があるのではないか、という発言がなされた。
 - これに対して事務局より、純損益の定義を行わなければならないから定義を行うという主張をしても、それではどのように定義するかという話になるため、難易度は高いものの、ASBJ としては純損益の定義に関する議論に今後も引き続き取り組んでいく必要があると考えている、という回答がなされた。
- ある委員より、資料に記載のある「純損益がある期間における企業の業績に関する主要な情報源である理由として、利用者の分析における使用状況が挙げられているのは適切でなく、財務報告の目的から導かれるべきである。」について、理屈としては財務報告の目的から導かれるべきものであるが、利用者の分析における使用状況も付随的な意味があるという理解でよいか、という質問がなされた。
 - これに対して事務局より、ご指摘の通りであるという回答がなされた。
- ある委員より、リサイクリングを行う適切な基礎がない場合にはリサイクリングを禁止するという議論に関して、リサイクリングを行う適切な基礎がないからといって、包括利益のままにしておいてよいということにはならないため、論理的に飛躍があると考え、という発言がなされた。
 - これに対して事務局より、IASB は純損益については明確な基礎がないにもかかわらずリサイクリングすると純損益の目的適合性を損なわれることがあると主張していると理解しており、一方、包括利益は資産及び負債の増減により算出されるものであるため、包括利益のままにしておくということではないと考えている、という回答がなされた。
- ある委員より、IASB は確定給付負債又は資産（純額）の再測定についてリサイクリングを行う適切な基礎がないとしているが、個々の従業員単位で考えれば清算された時期を識別することができると考えており、なぜ IASB がリサイクリングの基礎について問題としているのか理解できない、という発言がなされた。
 - これに対して事務局より、IASB は、スムージング（平準化）につながることを懸念しており、スムージングされた損益は純損益の目的適合性を損なうと考えているのではないか、という回答がなされた。

- ある委員より、純損益について堅牢な定義を開発することができるか確信がないとして諦めるのではなく、純損益の目的から適切かつ具体的に定義することを試みるべきではないか、という発言がなされた。

以 上